



焼町土器(国重要文化財、川原田遺跡)



### ■御代田の縄文時代

御代田町には、縄文時代の遺跡46か所が残されています。縄文遺跡は主に、浅間山麓の塩野地区と、湯川の左岸の豊昇・面替地区に集中し、浅間と湯川の織りなす豊かな自然を恵に成り立っていたと考えられます。

遺跡は、今からおよそ1万5000年前から、3000年前まで(縄文時代の初めから終わりまで)のものです。今回の特集では、御代田に残された縄文文化遺産をご紹介します。

### ■御代田最古の土器

今からおよそ1万5000年前の縄文時代最古級の土器

片が、塩野東荒神遺跡から発見されています。



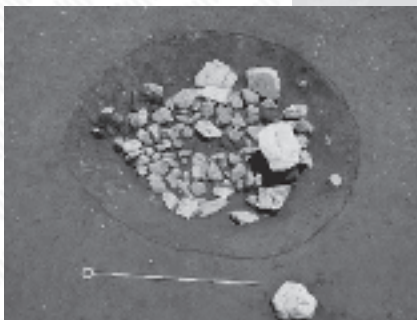
15000年前の土器(東荒神遺跡)

センチ程の小さな土器のかけらで、ソーメンのような細い粘土ヒモが表面に貼り付けられています。御代田にやってきた最初の人びとの暮らしの証しです。

### ■6000年前のムラ

塩野の下弥堂遺跡や塚田遺跡から、6000年前のムラが見つかっています。下弥堂では、14軒の竪穴住居が見つ

かったほか、石蒸し料理の跡が発見されました。



石蒸し料理の跡(下弥堂遺跡)

石蒸し料理は、今日でもパプアニューギニアなどにみられるものですが、焼け石の中に、木の葉などで包んだ肉などの食材を入れ蒸し焼きにするものです。

また、両遺跡では底の尖った尖底土器と呼ばれる土器が良好な状態で出土しており、

# 御代田町に残る

# 縄文文化遺産

■問い合わせ先 浅間縄文ミュージアム(32)8922

町の有形文化財となつていま  
す。



尖底土器(下弥堂遺跡)

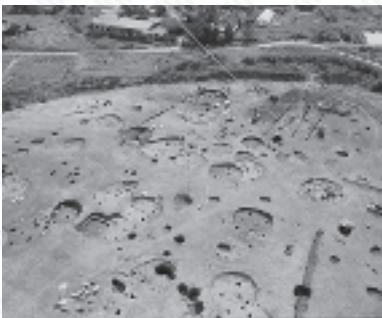
## ■縄文の至宝「焼町土器」

ドーナツ状の飾り、渦を巻く曲線、ダイナミックな文様



焼町土器の文様(川原田遺跡)

で裝飾される焼町土器は、塩野川原田遺跡の縄文集落から出土し、日本の縄文工芸の頂



川原田遺跡

点のひとつとして、平成11年に国の重要文化財に指定されています。海を渡ったマレーシア国立博物館でも、日本を代表する原始美術として展示されたことがあります。

5000年前の焼町土器は、過剰ともいえる裝飾から実用品でなくマツリなどに使用された特殊なものと考えられがちですが、実際にはナベとして利用された土器です。ただ、その裝飾には縄文人の特別なメッセージが込められているものと考えられますが、それを解読することは、考古学者でもなかなか困難です。

## ■湯川水系の縄文遺跡

豊昇の宮平遺跡で発見された人面のついた土器は、目・



人面土器(宮平遺跡)

鼻と鼻孔、口の表現がある土器で、中で火をともしたランプといわれる珍しい土器です。日常の明かりというよりは、

神聖な火を灯したのでしょうか。宮平では縄文人のつけた耳飾りも出土しています。



耳飾り(宮平遺跡)

面替小谷ヶ沢遺跡では、石を敷いた4000年前の敷石



敷石住居(面替小谷ヶ沢遺跡)

住居跡などが発掘され、当時の暮らしがうかがえます。

## ■縄文遺産にふれる

ここで紹介した縄文文化の代表的な出土品は、浅間縄文ミュージアムで常設展示されています。

ぜひ、ご覧ください。